第2510地区
Rotary
札幌東ロータリークラブ
創立昭和34年3月14日
会報 2020-2021
WEEKLY BULLETIN
4月15日（木） 第23号
第2979回 例会

本日のプログラム

札幌トヨペット社会貢献活動取り組み 沖田俊弥 会員

新会員卓話 清野敏彦 会員

私は昭和43年６月30日に北海道日高の富川で、２人兄弟の長男として生まれました。中学の頃までは転勤が多く６回転校をしたことから、将来就職する時は転勤のない会社に勤めようと心に誓っておりました。高校を卒業後、札幌の北海道総合電子専門学校に進みました。静内の田舎から札幌の都会に出てきた私は、遊ぶお金を作るために昼のアルバイトと夜のすすきのでのアルバイトに明け暮れて、学校にはほぼ行かない生活となってしまいました。結局、２年に進級できずに専門学校を退学し、その後１年位アルバイトを続けておりました。

その頃、友達からトラックの運転手にならないかと誘われトラックの運転手になろうと決意しました。今では、物流業のやりがいは何ですかと言う質問に、「人が生活する上で欠かせない、あらゆるものを届けているのが物流企業であり、過去に大災害のため物流がストップした時にはあちこちで混乱が起こったように、物流企業の仕事は社会に与える影響がとても大きいです。社会を支えていると実感できることが物流企業の社員としての誇りであり、お客様に「ありがとう」と言っていただくことが、何よりの喜びです。」と答えておりますが、当時はそのようなことは微塵も思っておりませんでした。トラック運転手になった理由は、友達からの誘いもありましたが、お金が稼げることや、デコトラが流行っていた当時、トラック野郎の菅原文太への憧れがあったからです。

平成元年１月に入社し、その２週間後に長野県松本市へ３カ月手伝いに行ってくれと言われ、トラックの運転もままならない状況で松本へ行くことになりました。同僚の先輩とともに３名で、埼玉の大宮に連れられて行き、大きな道路へ出ると、そこには４ｔトラックが３台止まっており、３名の先輩が待っていました。その先輩達と交代し、松本までトラックを運転していくことになったのですが、私ともう一人の同僚は道も分からず、トラックの運転経験も浅かったので、死に物狂いで先輩のトラックについて行き、何とか生きて松本へたどり着きました。この経験は生涯忘れることはないと思います。

その後、松本と札幌を拠点に大型トラックで走り回っておりましたが、平成６年４月に、当時の専務が独立をすることになり、私もそれに付いていくことになりまして、(株)ジャスト・カーゴに入社をしました。新しい会社ではトラックを降りて、事務所で配車業務を担当することになりましたが、仕事は忙しく、週に２日は会社に寝泊まりするような日々を送っておりました。

平成14年までに長野県松本市、群馬県沼田市の営業所を立ち上げて、売上を４億から８億まで伸ばすなど、当初の業績は順調でした。しかし、当時の売上の90％以上を占めていたお客様が平成16年に産業再生機構の支援を受けるまで業績が悪化したことに伴い、当社の業績も悪化し、松本と沼田の営業所を閉め石狩の本社に集約するなどして立て直しを図りましたが、平成16年12月期決算では債務超過に陥ってしまいました。前社長が退任し、お客様の支援を受けて再生を目指すことになりましたが、お客様の会社から社長を送り込むほど余裕がないとのことで、当時常務だった私が36才で債務超過の会社の社長に就任することになりました。今では就任から16年が経ちましたが、就任当初は、罵倒されたり理不尽な事をされたりと非常につらい日々を送りました。自分自身が諦めてしまえば会社は潰れていたかもしれません。

現在コロナ禍で当社も苦戦を強いられていますが、絶対に負けない強い気持ちと、絶対に諦めない強い心で、コロナ禍に打ち勝ちたいと思っております。また、ロータリアンとして奉仕に努めていきたいと思います。今後も皆様にはご指導のほどよろしくお願い致します。

2020～2021年度 国際ロータリーのテーマ
「ロータリーは機会の扉を開く」
国際ロータリー会長：ホルガー・クナーク

■本日のロータリーソング
奉仕の理想

Rotary Opens Opportunities